

人生 書『共産主義 左翼小児病』学

第7回 四国ブロック

妥協は次たたかうための英断である

司会（東口）：今回は第8章です。

第8章 妥協は絶対にいけないか？

（レポート要旨）

・ドイツ「左翼」共産主義者は、自身でマルクス主義者になろうとするが、マルクス主義の根本的な真理を忘れている。

・彼らは歴史的発展の歩みが創り出した全ての中間駅と妥協を一足飛びに飛び越そうとしている。

・労働者は誰もが少なからずブルジョ

アとの闘争のなかで妥協を経験している。経験の浅い革命家には「妥協をゆるすこと」は危険であり理解ができないが、「妥協は絶対にいけない」とするのはばかげている。

・「妥協」には、あらゆる場面でそれを判断できる力が必要であり、そのためにはなくてはならない知識や経験のほか、理論に裏付けられた政治的直感をつくりあげなくてはならない。

・ドイツ左翼は「他の党とのあらゆる妥協……迂回政策と協調のあらゆる政策は、断固として拒絶すべきである」としている。

・彼らはヴェルサイユ講和の否認に固執し、あろうことかブルジョアジーとブロックを結んでまで戦争に向かおうとした。不利なのをわかっていて戦争を始めるのは罪悪であり、それを避けるために「迂回、協調、妥協」は必要であって、それを頑なにできないとする政治家は役に立たない。

心理を忘れたマルクス主義者

司会（東口）：第8章のレポートは香川県協の林さんです。ドイツとロシア両方の一般的な歴史を中心にレポート

◆ みんなの学習講座

いただきました。ここでは、以前第4章後半で議論した「妥協」の問題について改めて書かれています。レポーターから少し冒頭の内容を紹介してもらいましょう。

林・レーニンには、まず「自分は疑いもなく共産主義者だと思ひ、またマルクス主義者になろうとしている人たちが、マルクス主義の根本的な真理を忘れているのを見るのは、悲しいことだ」と述べてから、エンゲルスによるコミューン派—ブランキストの宣言文批判を紹介しています。この宣言には「共産主義者は勝利の日を延ばし、奴隷状態の期間を長びかすだけの中間駅にとどまってはならず、また妥協することなく、ひたすら自分の目的をとげようとのぞむ」とあります。

エンゲルスは「ドイツ共産主義者たちが共産主義者であるのは、彼らが、彼らではなく、歴史的発展の歩みが創り出した全ての間駅と妥協を越えて

最後の目的（つまり階級を無くし、もはや土地と全ての生産手段とに対する私有の余地がない社会秩序を作り出すこと）をはっきり見定め、絶えずそれに向かつて進んでいるからである」としつつも、この33人のブランキストたちは、自分たちが中間駅と妥協とを飛び越える願望をいだきさえすれば、たちまち、それで「万事おわれり」と考えている。そしてもし数日中にことが「はじまって」権力が彼らの手に急に落ちるようになれば、その二、三日のちには「共産主義がおこなわれるだろう」と、と。だから、もし今すぐそういうことができないなら、彼らは共産主義者でないことになる。これはなんと子どもじみた素朴さだろう、と言っています。

須藤…このエンゲルスの言葉は実に適確です。この全文は『マル・エン全集』（大月版）第十八巻に掲載されています。ちなみにブランキストというのは、

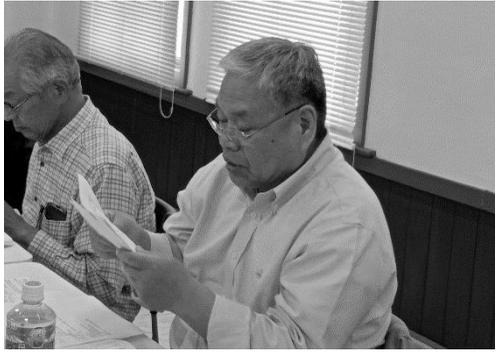
19世紀フランスの社会主義者ブランキの思想を信仰し、暴力革命を説いたグループです。

再び妥協について考える

司会（東口）…レーニンは、一つひとつの貴重な歴史的事実を通して妥協とは何であるか？ 妥協を許すことは何か？ 裏切りの妥協とどう違うのかを述べていきます。

岸本…前にも議論した妥協の問題ですが、正しい妥協と間違った妥協について、大衆の声も聞きながらたまたかた上、次のたまたかのため余力を残した状態で行う妥協が正しくて、逆に執行部が全て決めて判断し、大衆の意見も聞かぬまま行う妥協は悪いものなのかと。そこから辺りの何か定義はあるのでしょうか。

吉田…レーニンはいくつか説明していますが、プロレタリアは誰でも、あの



ドイツ・ロシアの歴史を説明する林さん

大衆の闘争と階級対立がするどくなる環境のなかに生活しているおかげで、客観的な条件（ストライキ参加者に資金がたらず、周囲からの援助もなく、彼らが極度に飢え、疲れ果てた場合）に圧されてやむを得ず結んだ妥協（つまりこの種の妥協をむすんだ労働者がその後の闘争に対して持つ革命的な献身と覚悟とを少しも弱めないような妥協）と、裏切者の妥協との区別を知っ

ている、と言います。彼ら裏切者は「自分の利己心、自分の臆病、資本家に取り入りたいという希望、資本家側の脅迫、時にはくどき落とし、時には買収、また時には資本家側からのお追従に譲歩しようとする自分の気持を客観的な原因のせいにする」と。

大西…たたかい抜いた末にやむを得ず結んだ妥協と、裏切り者の妥協とは違うということですね。そして、プロレタリアートの前衛、そのうちの自覚ある部分、共産党にとって、プロレタリアートのいろいろのグループに、労働者や小経営主のいろいろな党に対して、迂回政策、協調、妥協に訴える必要が、しかも無条件的な必要が、絶対的な必然をもって生まれてくる、と。

単なる妥協ではない

須藤…ただし、それはプロレタリアートの階級意識、精神、闘争し勝利を勝

ち取る能力の一般的水準を低めるのではなくて高めるために必要であるということですね。

司会（東口）…そのためにレーニンは一つひとつの場合をそれぞれ正しく判断できるように自分自身の判断力を備えなければならない」としています。そして党組織と名実ともに備わった指導者とが持つ意義とはこの判断力を持つことであると言います。それは知識や経験のほかに「政治的直覚」をつくりあげることだ、と。言葉では言えても実際になると非常に難しい問題ですね。

須藤…もちろん知識や経験も必要ですが、一番大事なのは信頼ですね。普段から大衆と議論を交わしたりするなかで指導部と大衆との関係が深まっていることが必要です。判断するのに大衆の意見を聞く時間的余裕がある時はよいですが、そうでない時には指導部下す判断に対して大衆との信頼関係が

◆ みんなの学習講座



熱心に議論する誌上学習会の参加者たち

なければ、彼らを動かすことはできません。

池内…この背景にあるのは、「他の党と妥協することや……すべて迂回と協調の政策をとることは、断固としてしりぞけなければならない」といったドイツ左翼の杓子定規な頑固さとか、妥協を絶対に許さないという構えへの批判ですよ。

司会（東口）…そうですね。ブルジョアジーや日和見主義者に対するどんな妥協も排して闘う、という構えです。そして彼らは、共産主義者や党がブルジョアジーや日和見主義者と妥協することを、労働者に対する裏切りであると非難しました。

須藤…レーニンは、こうした議論が、プロレタリア革命運動の歴史的具体的条件を無視して、自分らの願望を述べただけの性急な議論であると批判しているのです。「妥協を『原則的』に否定し、どんなものであろうと妥協一般を許すことをいっさい否定するのは、子ども染みているし、まじめに取りあげることもできない」と。妥協一般を否定することは問題とはなりえないけれど、先ほどのストライキのような客観的条件によって余儀なくされる妥協と、裏切りの妥協とを区別しなければならぬことを強調しています。

林…どんな妥協が革命政党にとって役

に立つか、あらゆる場合に役に立つような処方箋を与えることは出来ないけれども、現実の複雑な諸条件のなかで労働者の闘いの発展にとって役立つ妥協と裏切りの妥協とを区別することが革命政党の一つの重要な任務であるとレーニンは強調しています。

岸本…86ページ最後の辺りで指摘されている注意すべき点として、「ポリシェヴィキがメンシェヴィキに勝つためには、一九一七年の十月革命以前だけではなくて、その以後にも迂回政策協調、妥協といった戦術をとることが要求された」とありますが、どういうことですか。

須藤…先ほどあえて妥協等の戦術を取ることによってプロレタリアートの能力を高める意図があると少し話しましたが、本文にもあるように、メンシェヴィキを犠牲にしてポリシェヴィキの勝利のために、あえてその戦術を取りました。戦術的に揺さぶりをかけた



ドイツはヴェルサイユ講和条約締結を迫られる

いう感じですね。動揺を誘ってそれを上手く利用したわけです。こちら側に来る者には一定譲歩し、向こう側に行く者とは徹底的にたたかいました。その結果、メンシエヴィズムは次第に没落していったのです。つまりは戦術的に迂回政策、協調、妥協を利用したことで、ボリシェヴィキの勝利を早め、組織を強めたのです。

大西…妥協を一切許さないという態度では、単に勢力が二分化するだけで、膠着した状況が長期化するだけだったということですね。

戦争が妥協かを迫られるなかで

須藤…最後にヴェルサイユ講和をめぐる内容が書かれています。ドイツ「左翼」は講和の否認に固執していたばかりか、国際的なプロレタリア革命がすすむ当時の諸条件のもとでも、連合国と戦争をするためにドイツのブルジョアジーとブロックを結ぼうとまでしました。

司会（東口）…ヴェルサイユ講和とは、1919年に連合国とドイツとの間の条約で、第一次世界大戦によるドイツに対しての報復的な内容となっています。提示された内容は、海外領土の放棄、軍備制限、賠償金となっており、ドイツ領土をフランス、ベルギー、チ

エコスロバキア、ポーランド等に渡すことが決められています。非常に厳しい内容ですね。反対する気持はわかりますが、ということですね。

岸本…ドイツも含むヨーロッパの大国のどれか1つでもブルジョアジーを打ち倒すことができれば、国際的革命に対する大きなプラスになるということ、固執せずにいったん受け入れて機を待つといったところでしょうか。

大西…連合国はまさに有利な状況での講和を提示し、否認され、戦争になるのを待っているかの状況ですね。

司会（東口）…まさに革命の機運が高まっている情勢のなかで、あえて不利であることがわかった上で行う戦争に意味はないし、罪であると。それを避けるために「迂回、協調、妥協」が必要であり、それができない政治家は役に立たないし、革命的階級とは言えないと締めくくっています。

林…役に立たないばかりか、結果ドイ

◆ みんなの学習講座



三池争議は中央労働委員会の斡旋案を受け入れ終結

三池闘争終結をどう見るか

ツはナチスというものを生み出してしまいい、悲惨な結果を辿るといふ、まさにレーニンの心配していたことが起こりました。

池内…日本で見ればやはり三池闘争ですかね。総評は敗北と総括しましたが。

須藤…1960年、三池労組に対し、

中央労働委員会が、白紙委任を前提とした職権斡旋を申し入れてきました。

総評、炭労は、政府が事態收拾にのりだしたのは前進であると評価し、受託を決めましたが、提示された斡旋案は

「会社からの解雇は取り消されたものの、1カ月の整理期間満了をもって自

発的に退職したものとす」という到底認めることのできないものでした。

三池労組は一旦拒否の態度を示しましたが、炭労大会や三池労組中央委員

会での長時間の討論の末、組織的力量から判断し、これ以上たたい続ける

ことは困難であることから「指名解雇に絶対反対である」という理念は放棄し

ない」ということを付け加えることで苦渋の受諾をし、313日にわたる三

池闘争は終結したのです。

これを敗北と断じてしまうのは簡単ですが、この判断は前向きな妥協です。

その後全国の労働者と連帯を深めると

ともに、職場闘争の火を一層広げるた

めの決断です。もちろん解雇撤回までたたかうべきという意見もありました

が、ここでは一歩下がって、態勢を立て直し、たたかいを継続していくべき

だと判断し「今後、あくまで12000名を守り、条件の完全獲得と組織を守る

ために長期の抵抗闘争を決意する」と長期抵抗統一路線を決めたのです。

三池闘争で何よりの成果は、どんなに激しく弾圧されても、たたかい続ける

という、たたかいへの確信を一段と強めていったことです。

そして最後に、山川均はこのような言葉を残しています。「敵と妥協する

必要のないためには見方と妥協しなければならぬ。妥協することのできな

い原則をもつ者のみが、大胆に必要な妥協をすることができぬ」これは三池

労組によせられた言葉です。

司会(東口)…ありがとうございしました。次回は第9章を学習します。